

山梨県韮崎市

Yamamichi No.2 SITE

山道第2遺跡

携帯基地局建設に伴う発掘調査報告書

韮崎市遺跡調査会

韮崎市教育委員会

山梨県韮崎市

Yamamichi No.2 SITE

山道第2遺跡

携帯基地局建設に伴う発掘調査報告書

韮崎市遺跡調査会  
韮崎市教育委員会

## 序 文

韭崎市は武田発祥の地であり、武田氏ゆかりの史跡が数多く残っております。武田氏最後の城である新府城跡やその関連性のある武田八幡宮、白山城跡、能見城跡や願成寺があり、また、治水遺構として、御勅使川旧堤防跡（将棋頭）など、枚挙に暇のないほどであります。

韭崎市の地形を特徴づけている七里岩の上には坂井遺跡・宿尻遺跡・坂井南遺跡・新府城跡などをはじめ数多くの遺跡の存在が知られています。この度の調査対象となった山道第2遺跡は、過去に調査経過がなく、その詳細については把握されておりました。今回の調査により、弥生時代から古墳時代にかけての墓の一部と考えられる溝が確認され、七里岩上の空間的な先人達の土地利用の一端を知ることができました。

調査地そのものは調査終了後に、新たな建造物が建ちましたが、事業者をはじめとする関係者のご理解とご協力のなかで、記録保存され、本紙の刊行となりました。

このような調査の積み重ねにより、地域の過去が解き明かされていくとともに、発展的なまちづくりにも還元されていくことと思っております。

調査にあたり、ご理解をいただきました事業者の方をはじめ関係者の皆様方へ感謝申し上げます。

韭崎市遺跡調査会

事務局長 興水 豊

# 例 言

- 1 本書は蕨崎市穴山町に所在する山道第2遺跡における携帯基地局建設に伴う緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査ならびに、整理作業は蕨崎市教育委員会整理のもと、蕨崎市遺跡調査会で実施した。
- 3 発掘調査ならびに、整理作業は蕨崎市遺跡調査会の関根俊明が担当した。本書の編集・執筆は関根がおこなった。
- 4 本書に関わる出土品・諸記録は蕨崎市教育委員会において保管されている。
- 5 組織（屋外調査時）  
蕨崎市遺跡調査会  
事務局長：奥水豊 課長：雨宮正巳 課長補佐：武川春子・小林豊 リーダー：大石智久  
担当：山下孝司・関根俊明

# 目 次

序 文  
例 言  
目 次

第1章 調査経過	1
第2章 遺跡の環境	1
第3章 出土した遺構と遺物	1
第4章 まとめと課題	1

図 版

## 第1章 調査経過

周知の埋蔵文化財包蔵地である山道第2遺跡で携帯基地局の建設計画があり、文化財保護法第93条に関わる届出があった。市教委では、埋蔵文化財包蔵地であるものの、遺存状況については未把握であることから、試掘調査が必要であることを意見として山梨県教育委員会に経由進達をおこなった。その後、山梨県教育委員会から試掘調査の指示が事業者であり、荊崎市教育委員会では事業者と協議をおこない、試掘調査を実施した。その結果、遺構・遺物が検出された。

試掘調査の結果を受け、市教委と事業者で協議をおこない、現状で遺跡を保存することが困難であるため、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

## 第2章 遺跡の環境

山道第2遺跡は八ヶ岳から伸びる七里岩台地上の標高490m前後に所在する。南と北に西に向かって切り込む谷があり、東は比高20m前後の斜面となる。約1haの舌状台地上に展開する遺跡である。表面採集などで縄文土器等が確認されたことから周知の埋蔵文化財包蔵地として認識されてきた遺跡である。

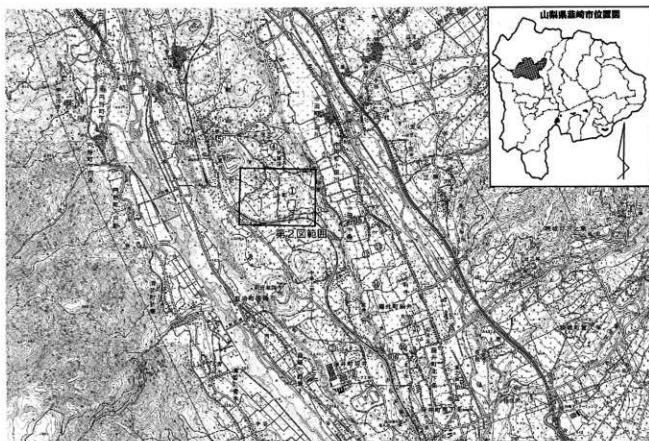
## 第3章 出土した遺構と遺物

調査区は6×6mの正方形である。幅約2.6mのやや弧を描く溝が確認された。溝内の堆積土から第4～5図に示した遺物が出土した。時代・量などの検討から弥生時代終末から古墳時代前期にかけての溝である可能性が高いといえる。S字状口縁台付甕や赤彩の高杯などが出土した。溝の形態や出土遺物などから、方形周溝墓と捉えることができよう。

## 第4章 まとめと課題

山道第2遺跡では初めての考古学的な調査が実施されたこととなる。弥生時代終末から古墳時代前期にかけて、当時の墓形態として存在した方形周溝墓の周溝部と考えられる溝を確認し、溝内から当該期の遺物を確認した。当該期の集落跡としては、坂井南遺跡や宿尻第二遺跡が知られ、当該跡はその間の空間の土地利用を検討する上で極めて重要といえる。また、縄文時代中期後半の曾利Ⅱ式期や同後期前半の堀之内式期の土器が少ないものの出土していることから、今回の調査では遺構は確認していないが、周辺に縄文時代の土地利用の痕跡が展開している可能性が考えられる。

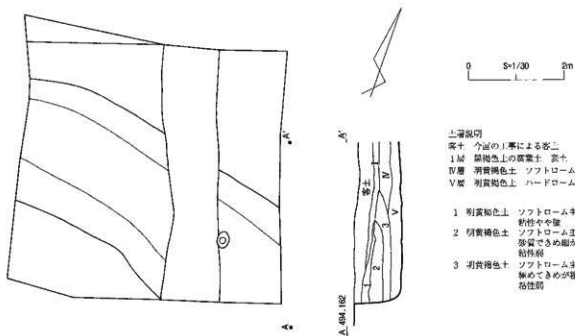
今回の調査は狭小であることから、遺跡の全体的な評価をすることは控えるが、このような小規模な調査の積み重ねによって、個々の遺跡だけではなく、空間的な検討が可能になってくる。



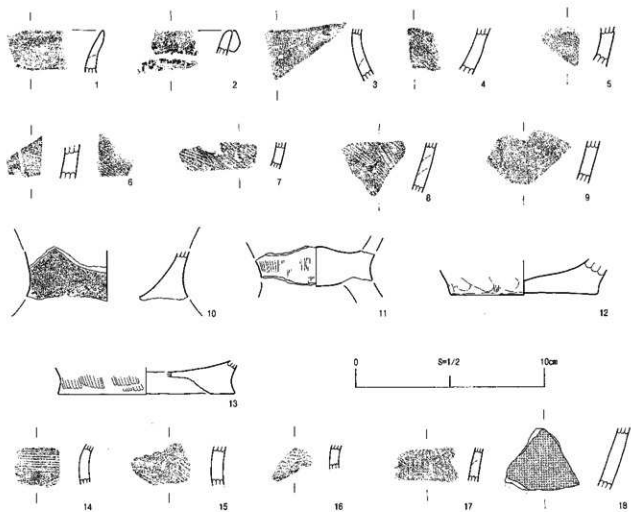
第1図 山道第2遺跡と周辺の調査遺跡 (S=1/50,000)



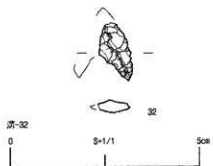
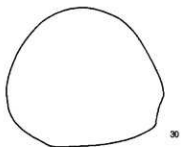
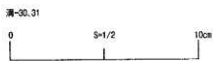
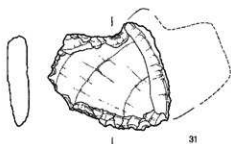
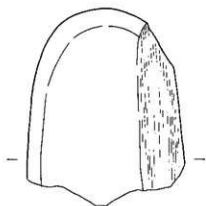
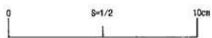
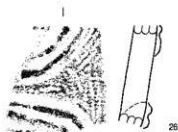
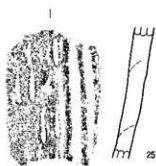
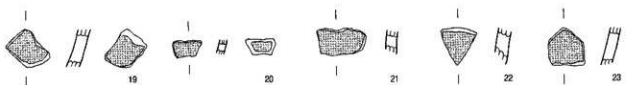
第2図 山道第2遺跡位置図 (S=1/5,000)



第3図 山道第2遺跡全体図



第4図 溝出土遺物(1)



第5図 溝出土遺物(2)



表1 遺物観察表

図版No.	器物No.	時期	器名	色相(内)	色相(外)	胎土	部位	寸法(㎝)	説 考
第4図	3	弥生-古墳	灰or黄?	にぶい藍色	にぶい藍色	白・藍色粘土	口縁部以下	5.3	内外、黄で
第4図	2	弥生-古墳	灰or黄?	褐色	褐色	白・乳白・藍色粘土	口縁部以下	5.5	内外、黄で
第4図	3	弥生-古墳	灰or黄?	灰褐色	灰褐色	白・藍色粘土	腹部片	8.3	内、黄で、外/胎土に縦刷毛目
第4図	4	弥生-古墳	灰or黄?	褐色	にぶい藍色	白・藍色粘土	口縁部片	4.4	内/黄で、外、刷毛目
第4図	5	弥生-古墳	灰or黄?	にぶい藍色	褐色	白・藍色粘土	口縁部片	3.1	内/黄で、外/刷毛目
第4図	6	弥生-古墳	灰or黄?	にぶい藍色	にぶい藍色	白・黒・赤・藍色粘土	口縁部片	5.2	内/刷毛目、外/刷毛目・沈線あり
第4図	7	弥生-古墳	灰or黄?	にぶい藍色	にぶい藍色	白・藍色粘土	腹部片	5.2	内、黄で、外/刷毛目
第4図	8	弥生-古墳	灰or黄?	にぶい藍色	にぶい藍色	白・藍色粘土	腹部片	6.7	内/黄で、外/刷毛目
第4図	9	弥生-古墳	灰or黄?	にぶい藍色	にぶい藍色	白・藍色粘土	腹部片	9.8	内/刷毛目外、外/刷毛目
第4図	10	弥生-古墳	灰or黄?	浅黄褐色	にぶい藍色	白・黒・赤・藍色粘土	腹部片	22.3	内、黄で、外/胎土に縦刷毛目
第4図	11	弥生-古墳	灰or黄?	浅黄褐色	にぶい黄褐色	白・乳白・黒・藍色粘土	腹部片	60.2	外/胎土に浅刷毛目
第4図	12	弥生-古墳	灰or黄?	褐色	褐色	白・黒・赤・藍色粘土	腹部片	60.1	内/黄で、外、磨面・縦刷毛目
第4図	13	弥生-古墳	灰or黄?	淡黄色	淡黄色	黒・白・赤・藍色粘土	口縁部片	26.6	内/黄で、外/刷毛目・灰面に朱塗線
第4図	14	弥生前期	灰or黄?	にぶい褐色	にぶい褐色	黒・白・乳白・赤・藍色粘土	口縁部片	5.0	内/黄で、外/磨面方向の磨痕あり
第4図	15	弥生前期	灰or黄?	にぶい藍色	にぶい藍色	白・黒・赤・藍色粘土	腹部片	6.6	内外、黄で、外/胎土
第4図	16	弥生前期	灰or黄?	にぶい藍色	にぶい藍色	白・藍色粘土	腹部片	2.4	内、黄で、外/刷毛目沈線
第4図	17	弥生	灰or黄?	にぶい藍色	にぶい藍色	白・黒・赤・藍色粘土	腹部片	3.6	内/黄で、外/磨面黄
第4図	18	弥生	灰or黄?	浅黄褐色	褐色	白・乳白・黒・藍色粘土	口縁部片	10.3	内/黄で、外、磨面
第3図	19	弥生	灰or黄?	暗黄色	褐色	白・黒・赤・藍色粘土	口縁部片	2.8	内外/灰面
第3図	20	弥生	灰or黄?	明赤褐色	明赤褐色	黒・白・赤・藍色粘土	腹部片	0.7	内外/胎土
第3図	21	弥生	灰or黄?	灰褐色	赤褐色	黒・白・赤・藍色粘土	口縁部片	2.6	胎土に沈線、外/磨面
第3図	22	弥生	灰or黄?	にぶい藍色	赤褐色	赤・白色粘土	口縁部片	2.3	内/黄で、外/赤面
第3図	23	弥生	灰or黄?	褐色	明赤褐色	白・黒・赤・藍色粘土	口縁部片	2.8	内、黄で、外、赤面
第3図	24	弥生(資料II)	灰面	藍色	藍色	白・黒・赤・藍色粘土	口縁部片	20.6	内、黄で、外/黄文→胎土に横刷毛目
第3図	25	弥生(資料II)	灰面	にぶい藍色	にぶい藍色	白・乳白・黒・赤・藍色粘土	腹部片	55.2	内/黄で、外/磨面上に胎土内皮による黄で→刷毛目(半竹内皮)
第3図	26	弥生(資料II)	灰面	浅黄褐色	浅黄褐色	赤・黒・白・藍色粘土	口縁部片	52.4	内、黄で、外/磨文→磨線上に半竹内皮による黄で
第3図	27	弥生(資料II)	灰面	にぶい藍色	明赤褐色	白・乳白・赤・藍色粘土	口縁部片	18.9	内/黄で、外/半竹内皮による沈線
第3図	28	弥生(資料II)	灰面	褐色	褐色	白・黒・赤・藍色粘土	口縁部片	12.0	内、黄で、外/胎土
第3図	29	弥生(器之内)	灰面	明赤褐色	藍色	白・乳白・黒・赤・藍色粘土	口縁部片	15.5	内、黄で、外/口縁部に竹筒内皮による沈線
第3図	30	弥生	灰面	-	-	-	-	95.7	石段：実径片・長さ：(10.5)・幅：1.8・高さ：1.4
第3図	31	弥生	石段	-	-	-	-	90.8	石段：実径・長さ：(5.6)・幅：(6.5)・高さ：(1.1)
第3図	32	弥生	石段	-	-	-	-	0.1	石段：実径片・長さ：(1.3)・幅：(0.9)・高さ：(0.4)

## 発掘調査報告書抄録

ふりがな	やまみちだいにいせき							
書名	山道第2遺跡							
副書名	携帯基地局建設に伴う発掘調査報告書							
編者名	岡岡俊明							
編集機関	葦崎市遺跡調査会・葦崎市教育委員会							
住所	山梨県葦崎市水神1-3-1							
発行年月日	平成23年10月21日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
山道第2遺跡	山梨県葦崎市仲田町中條字山道地内	19207	S-24	35°44'49"	138°25'44"	H20.9	約40㎡	铁塔建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
山道第2遺跡	集落跡	縄文時代		縄文時代の遺物				
		古墳時代	周溝墓	古墳時代の遺物				

---

## 山道第2遺跡

携帯基地局建設に伴う発掘調査報告書

発行日 平成23年10月21日

発行 葦崎市遺跡調査会・葦崎市教育委員会  
〒407-8501  
山梨県葦崎市水神1-3-1  
TEL 0551-22-1111 (代表)

印刷 ほおずき書籍株式会社  
長野市柳原2133-5

---

